

有限会社ケアサービス米子 てるひ  
鳥取ふれあい共生ホーム 照陽の家

見学・インタビュー調査レポート

見学日時：2016年10月14日(金)  
お世話になった方：馬田様、三代様  
参加者：金子、高瀬



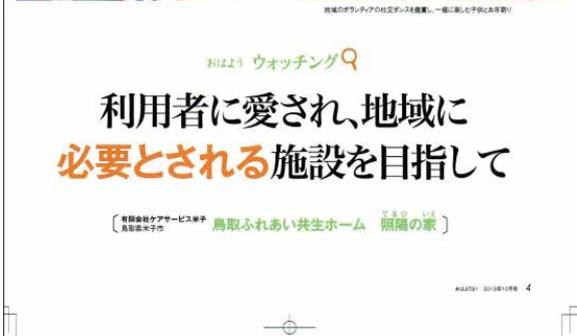
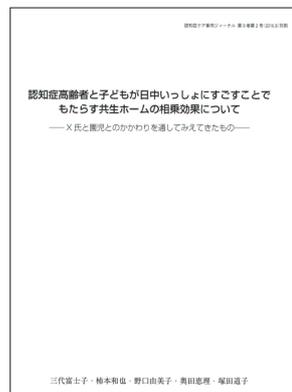
施設概要：複合型サービスと小規模保育園の合築型  
1階…デイルーム、保育室、2階…宿泊室  
隣に地域交流施設があり、随時解放している。

周辺概況：米子市内で最も古い市街地で最も栄えていた。自治会活動も活動的に行われていたが、現在では高齢化も進み、米子最高高齢化率となっている。米子駅から歩いて向かうと、商店街を通ることになり、個人経営と思われる店舗が多く見られた。また、2階建て程度の民家が多く、照陽の家の建物も街の周辺になじんでいた。

・インタビューから伺った運営理念等

事業側から地域に歩み寄りが必要で、その中で地域の課題に取り組んでいかなければならないと考えている。イメージとしては自宅近くの集会場、あるいはセカンドハウスの場所を目指している。誰でも自由に凝られるような、相互交流による助け合いを行える場所としての運営をしている。

施設での活動を知ってもらうため、様々な広報活動や書籍での広報を行っている。



### ・見学時の様子

10時ごろから見学に向った。この時間帯は、日頃から高齢者と子どもの交流を行っており、朝の体操から11時ころまで一緒に活動を行っている。体操や運動を終えた後は、自由に遊んでもらうか、イベントがあればそれらの準備を行ったりと、近日のプログラムに合わせて活動している。



### ・デイルーム、保育室

引き戸を開放することで、2室が1室として利用できるようになっている。また、引き戸はガラスが多く、保育室やデイルームからお互い「見る・見られる」の関係をとることができる。これは、家族のように関わることで、お互い礼節を持って生活できるようにするという運営理念とマッチしていると感じた



左から、保育室・デイルーム、静養室の様子

### ・宿泊室

デイルームにある静養室(ベッド空間)とは別に、SS利用者が使う宿泊室が2階に設けられている。こちらは1階とは違い、人の目が少なく静かな環境で過ごすことができる。また、廊下を介して地域交流室が見えるような造りになっており、活動が行われているときはみることも可能ではないかと思った。静かな空間としての使い方と、活動を見る空間として動きのある空間の使い方ができる。



宿泊室と地域交流室の外観

### ・まとめ

建築的特徴は特になく、と見学の際言われていたが、それを上回る運営と活動で建築が最大限生かされていると思った。建物自体は地域に開かれたような敷地ではなく、また建物も開放しやすいような造りにはなっていないが、地域との関わりを密に持ち、積極的に住民の方に広報、活動を一緒に行うことで、利用者がより馴染みのある空間で生活を続けられるよう、運営が行われており、共生型であることと地域密着型であることを最大限に生かされた運営が行われていると感じた。